

第6回子育て・教育部会 主な意見

《情報提供会について》

●周知方法について

- ・ SNS を使った周知・中学校の保護者向け配信メールは可能。
- ・ 小中学校の各イベントを通じてチラシ配布・告知・説明会等を調整。

●情報提供会の内容・開催方法について

- ・ 資料はこれまでの子育て・教育部会での内容をダイジェスト版を想定。
- ・ 情報提供会以外に保護者からの意見を集める会はないのか。
⇒最初は情報提供を目的とした会を行い、以後の開催については今後検討する。(市)

《地域の子育て環境について》

●「プレーパーク」の取組みについて

- ・ 10/20(土)に「プレーパーク」のイベントを実施予定。大きなイベントではないが、子ども達の日常に根付いてほしいという想い。幸小の子の参加者が多いが、池上小・信太小の子にとってまだアウェー感があり行きづらい様子。
- ・ 実施までの準備期間は、青少年センター以外で行うならばそれなりに必要。
- ・ ボランティア参加の高校生は7～8名。前回参加者は20名程度。
- ・ 「ふれあいサタデー」以外の日程で、多くて月2回を目途に開催していく予定。

●「てらこやハッピー」の取組み、「プレーパーク」とのコラボについて

- ・ 例えば「流しそうめん会」は、人手が必要なので「プレーパーク」と協力できそう。
- ・ 食でつながっているからか子どもたちのアウェー感はあまり感じない。むしろ子ども達は皆パワフルなので、子どもとの付き合いが上手な元教員等のサポートがほしい。
- ・ 今の状況ではこども食堂と学習支援は同時に成立しない。仕切りが必要。

●今ある活動をベースとした展開・イベントについて

- ・ 「プレーパーク」と他のイベントとの合同開催は可能では。大きい遊具を必ずしも作るわけではなく、子ども達の主体的な遊びを大人が黙って見守る活動。

⇒すでに取り組みされていることなら地域の人にも受け入れてもらいやすい。

- ・ 「プレーパーク」をやるならば、人が常に来る仕掛けができる場所でやったほうがよいと思う。同時に大人も快適に過ごせる環境、集い場づくりもできれば良い。
- ・ 子供たちがお客様状態ではいけない。自分たちが考え、親たちがサポートする形が重要。そういった教育的雰囲気が小中一貫校化を見据えた上で地域の土台づくりにつながる。
- ・ 定例的に行う、1つの場所に色々なイベントを詰め合わせる等“ここに来れば何かある！”というイメージをつけたい。そういったことを始めていくきっかけ、グループが欲しい。

⇒部会として今後子どもや親向けのプロジェクトを企画し実施していくことについて承認。具体的な内容や場所、担い手等詳細については企画会議を別途作り考えていくことで全員同意！

●イベント内容について

- ・人を集められるイベントが良い。
- ・最初のイベントの目的は、今ある地域での取組みやこれからイベントを行っていくことの周知。

●安全性・衛生面等の懸念点

- ・今あるイベントを手伝ってスタッフが経験を積んでからの方が失敗しないのではないかと。人が来ないくらいの失敗ならばよいが、食あたりやケガなどないようにしたい。
- ⇒慎重になることも大事だが、同時進行で進めていきたい。来年の今頃には形にすることを考えるとスケジュール的に今から動き出していきたい。
- ・「てらこやハッピー」では子ども達のケガ・物損等に備えて年間の保険に入ってもらっている。

●プレーリーダー（ボランティア等）集めについて

- ・台風 21 号の時に中学校の生徒が和泉第一団地住民を助けてくれたつながりを活かしたい。
- ・ボランティアの問題をクリアできれば、イベントは成功したも同じ。それだけ大変な課題。

●その他

- ・12 月の「てらこやハッピー」は予定通りでは第三木曜日の 20 日（木）だが、イベントがあるのなら合わせて開催としてもよい。